



市制施行10周年を迎えました



市の歌「うみ・そら・みどり牧之原」を歌い市制10周年を祝う今村さんとコーラスフレンズメンバーたち

平 成17年10月11日に旧相良町と旧榛原町が合併し、牧之原市が誕生してから、今年で10年が経ちました。

これを記念して、市では「市制施行10周年記念式典」を10月11日、いくらで開催しました。

式典には、副知事や国会議員をはじめ、熊本県人吉市や青森県三戸町、長野県松川町、ワシントン州ケルソー市の友好都市・周辺市町の首長や議長など、市内各種団体や企業の代表者、市民ら約500人が出席し、市誕生10周年を祝いました。

式典に先立ち、10年の歩みと市の魅力を紹介する映像を公開。また、牧之原市の歌「うみ・そら・みどり牧之原」を、本市出身のテノール歌手「今村一貴」さんや市内コーラスグループ、会場の皆さんで歌い上げ、披露しました。

式辞で西原市長は「子どもたちがこれからも牧之原市に住みたい、市が好きになって誇りに思う、そういうまちづくりを進めていきたい」と述べました。

引 き続き、法政大学大学院教授の坂本光司氏による、「10年を総括、対話による協働のまちづくり」をテーマとした記念講演や、感謝と親心を表現する親子の短歌「親守詩」の発表、高校生らによる宣言「私たちのNEXTまきのはら」が行われました。



坂本光司教授による記念講演

親守詩
親守詩とは、「子どもが五・七・五で、親が七・七でつなぎ、感謝と親心を表現する世界にたつたひとつの親子のキャッチボール短歌」です。



作者 相良小 4年
赤堀こころさん 親子



作者 川崎小 4年
小西博太さん 親子

この服も
もう着れないね
小さいよ
我が子の成長
みんなに感謝

おいしいな
ぬくもりかんじ
ごはん食べ
にぎる包丁
愛情こめる



私たちのNEXTまきのはら

私たちは、毎日牧之原市で過ごし、暮らしているでも、歴史や文化、産業 まだまだ、知らないことばかり私たちが、住まうまちを知ろう、学ぼう、そして、触れ合い、体験しよう

きっと、色々な気づき、すごさや魅力も分かるはず安全安心で、楽しく、居心地の良い、住みやすいまちに向かって思い切って始めよう、今、私たちにできることからボランティアや地域行事への参加など、そして、その活動を拡げていこう

住みたい、住み続けたいまちを創るのは、私たち一人ひとりだからそれがどんなに小さなささいなことでも、私たちの努力の積み重ねが、牧之原市を変えていく

さあ あなたの、そして、みんなの幸せあふれる「NEXTまきのはら」を

みんなの想いと力で創り上げていこう
私たちの、住みたい、住み続けたいまち 自慢の牧之原市を



ホールの外では呈茶サービス、全国からのお祝いのメッセージや、小学生が市の歌の歌詞からイメージして描いた絵画コンクールの作品、親守詩の作品、本市出身の切り絵作家「櫻井敏彦」氏の作品などの展示が行われました。